**主　催**　公益社団法人平塚青年会議所

**ひらつか**

**タウンミーティング**

**開催結果報告書**

**１　開催日時　令和６年（２０２４年）１１月２１日（木）**

**午後６時から７時５０分まで**

**２　開催場所　ホテルサンライフガーデン**

**３　参加者 　中学生５人、高校生５人、大学生ファシリ**

**テーター３人**

****

**４　平塚青年会議所理事長あいさつ**

皆様こんばんは。本日は落合市長をはじめとする行政関係者の皆様、地域事業者の皆様、そして学生の皆様よろしくお願いいたします。

本日開催するひらつかタウンミーティングは2017年に落合市長のご協力の下、平塚青年会議所が始めたものになります。開始から７年が経過し、これまでに大変多くの方々に関わっていただきました。地域課題を扱うこの事業でリトアニアに興味を持たれた方がリトアニアに留学をし、そして学校の教職員になる。行政の仕事に興味を持ち、行政の関係者になる。あるいは政治家を志す。様々な方がいらっしゃいます。

私が最初にこの事業を実施したとき、神奈川県でも同じような事業を行っていました。毎年参加している高校生に参加した理由を聞きました。この事業をきっかけに自分の将来の夢ができたという話をしてくれました。他にも、青年会議所の事業に関わったことで福祉系の大学に進み、自分のおじいちゃんおばあちゃんのために生きていきたいという志を持った青年の話も聞きました。このようなことを聞いたときに、私たち青年会議所の事業を適当に行ってはいけないし、私たちの活動次第で、人の人生を豊かにできるものがあるかもしれないと改めて考えさせられました。青年会議所のメンバーはこれからも様々な事業を展開されると思いますが、ご協力いただいている地域事業者の皆様、行政関係の皆様、そしてかけがえのない青春を提供してくれている学生の皆様のためにも自身の力を最大限に生かし、自分のつながりと関わりを提供していただきたいと思います。

多くの学生は、今の時間であれば夕飯を食べて、そろそろ楽しいテレビの時間だったり、YouTube の時間だったり、TikTok を見たりしていることと思います。一方で、今日参加している学生の皆様は、かけがえのない時間を提供してくださっており、今日という１日が有意義な時間になると思います。

また、先ほど出席した七夕まつり実行委員会の会議の中で、今年の開催報告がなされました。報告書の中には皆様の活動がしっかりと記載されています。ということは、皆様が一生懸命やっていただいたことが、平塚の歴史に刻まれているということになります。

皆様が割いていただいた大切な時間は、間違いなく平塚市のためになっています。七夕まつりのためにもなっています。ともに商品開発した方は事業者のためになっていますし、それを食べた人のためにもなっています。

皆様の活動は、多くの人の幸せを構築しているのだと誇りに思ってください。

私からは学生の皆様への感謝の気持ちと、青年会議所メンバーに対する様々な方と向き合う姿勢についてお話させていただきました。本日はどうぞよろしくお願いします。

**５　ひらつかタウンミーティング 2024 の趣旨説明**

このひらつかタウンミーティングは 2017年度に今の理事長であります猪俣理事長が始められた青少年育成事業から派生した事業です。当初は平塚の政策を学生たちが考えて、市長に提言をするという事業から始まっています。そこから名前を変えて、2022年度にこのひらつかタウンミーティングという形になりました。

今年度2024年度は、2023年度のひらつかタウンミーティングで提言した内容から、一部実現するような事業を７月に行いました。その中から、学生目線で地域の魅力や課題の議論をし、新たな課題解決案や魅力の発信についての提言を本日発表いたします。学生たちは、市役所の方などとの意見交換を踏まえ、その内容をしっかり考え議論して本日提言としてまとめました。是非学生たちの考えた提言を聴いていただいて、大人の皆様も地域について改めて考える機会にしていただけたら幸いです。本日はどうぞよろしくお願いします。

**６　市長あいさつ**

皆様こんばんは、平塚市長の落合です。今日は、主催者であります平塚青年会議所の皆様、大学生のファシリテーターの皆様のご尽力により、ひらつかタウンミーティング2024が開催をされますことに深くお礼を申し上げます。

先ほど猪俣理事長からもお話がありましたが、ひらつかタウンミーティングは今回で８回目になります。毎回、学生ならではの考えや意見をいただける貴重な場になっています。

今日は、意見発表に当たり、多くの中高校生が参加をされています。忙しい合間を縫ってこの日のために準備をしていただいたことに、心から感謝申し上げます。

今年は、昨年に提言をいただいた内容を学生の皆様が自ら実践し、感じた課題や解決方法を発表してくださるということで、楽しみにしています。

机上での話し合いだけではなくて、新商品の開発や販売、イベントへの参加という実体験を通した発表ですので、大変説得力があるものと思います。

皆様が今回のタウンミーティングに取り組まれたことは、将来きっと地域社会に目を向けるきっかけになりますし、今後の生き方や学びの場がしっかり広がっていくものになると思います。そうなることを願い私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いします。

**７　提言発表と質問事項**

【防災グループ】

（参加者が自己紹介）

（生徒）

僕が住んでいる山城の地域では、８月30日に大雨が降り、川が氾濫しました。とても危険でしたが、なんと僕の友達はその川の様子を見に行きました。

　　　僕が通っている山城中学校の避難訓練は校庭に集まってすぐに終わってしまい、周りの友達は災害の危険性を全然わかっていません。皆がずっとこのままだと危ないとは思いました。

（生徒）

私はその大雨の後、災害復旧ボランティアに参加しました。ボランティアの中に若い世代の人は見当たらず、中高年の方々が大半を占めていました。そのため、力仕事などは非常に大変そうでした。また、このタウンミーティングの1日目には平塚市役所の災害対策課の方とお話をしました。

　　　災害対策課では広報紙やSNSなど様々な手段で災害に関する情報を

　　発信していますが、それをもっと多くの人に届けたいという思いがあ　　ることを知りました。

　（生徒）

２人の経験と市役所の方の話から、若い世代の防災への関心が低いことが課題だと考え、私たちはターゲットを小中学生に絞りました。その理由は私たちに身近であるのと、市役所の政策にアプローチできるからです。

これからの社会を作っていく小中学生は、防災について真面目なことだと思っていたり、考える機会がなかったり、自分事として捉えることに慣れていなくて、いざとなったら何とかなるだろうと考えているのが現状です。そうすると、災害時に適切な行動が取れないと思います。

　（生徒）

この若い世代の関心が少ないという課題を分析すると、さらに２つの課題を見つけました。

１つ目は小中学生が興味を持って災害を体験する機会が少ないことです。そうすると、災害の実情や危険性のイメージを持てず、自分事として捉えていないと思います。また、防災に関するイベントや地域の避難訓練への参加、家での備えなどをする気持ちを持つことが難しいかもしれません。学校の避難訓練を体験するだけでは、訓練内容と実際に生じる災害とギャップがあった場合、小中学生は戸惑い、適切な行動が取れないことがあると思います。ひらつな祭や大型施設で災害の体験できるイベントなどが増えていますが、私が参加したイベントでは、同世代の人が少ないと感じました。

（生徒）

２つ目は小中学生が防災に関する情報を自分事として受け取ってもらえていないことです。そうすると必要なときに、どこで正しい情報を知るのか分らなかったりと、防災がどんどん遠いものになってしまう可能性があると思います。

タウンミーティングの１日目にお会いした平塚市役所の災害対策課の方々は、Ｘ や YouTube、広報ひらつかなどで情報を発信している中で、もっと小中学生に情報を届けたいと話してくださいました。

　　　防災を身近に感じてもらい、必要な情報を受け取ってもらうために、どういう情報をどうやって伝えるかを考える必要があると思います。

（生徒）

ここで市長にご提案が２つあります。１つ目は、小中学生が興味を持って災害を体験する機会が少ないという課題を解決するために、旧相模小学校を利用して災害を体験できるイベントや施設を作ることです。

現在、旧相模小学校はその一部を隣接する保育園の土地に、残りの部分を貸地とする予定とのことですが、私たちはその場所を新たな防災体験型施設として利用できるのではないかと考えました。

　　　現在の学校の避難訓練は授業中に地震が起こり、生徒が先生の指示に従って避難するというものです。昨年のタウンミーティングでは、地震はいつ起こるか分からず、同じような内容の避難訓練の繰り返しでは、いざというときに生徒一人ひとりが適切な対応を取るのが難しくなるのではないかということを課題に挙げていました。そこで、廃校を利用した防災施設を作ることで、その課題が解決すると考えています。例えば、学校で一人になったタイミングや大人がいないときなど、様々な状況で災害が起こったときに、どのように行動すればよいのかを、本物の校舎を使ってシミュレーションできるようになります。そうすることで興味を持ちながら災害をリアルに体験できるようになるのではないでしょうか。さらに、このような施設を利用して防災に関わらず、様々な地域のイベント活動を行うのもよいと思います。

（生徒）

２つ目は、８月30日から９月５日までの防災週間に、夕方のチャイムを防災に関する内容にすることです。この期間はいつもの曲に加えて、災害や防災について考える週間であることを伝える内容を流します。そうすると、毎年この時期に防災を身近に感じられるのではないかと考えます。また、「今、川が氾濫したらどの道で帰りますか」などの内容を平塚市の小中学生が話したアナウンスを流します。このアナウンスによって小中学生が自分で考えるきっかけを作れたらよいと考えました。皆の耳に入るチャイムを使うことで、災害を自分事として考えられるようになると思います。

（生徒）

この２つの取り組みによって、小中学生が災害を自分事としてイメージできるようになると思います。

　　　そうすることで、防災への関心が高まり、防災イベントや避難訓練　　への参加につながると思います。これにより、災害発生時の適切な行

　　動が取れるようになります。

【地産地消グループ】

（参加者が自己紹介）

（生徒）

初めに皆さんに３択クイズです。地産地消について何が問題だと思っていますか。①地産地消について知っている人が少ないこと、②農家が不足していること、③企画した商品が売れていないことです。

　　　答えは全部です。全てが課題だと思いますが、私たちが考える課題を整理してみたいと思います。

　（生徒）

まず地産地消が影でしか広まってないことが挙げられると考えました。「影でしか」というのは、地産地消が平塚で身近に行われている現状があまり知られていないという意味を含んで、あえてこの表現にしています。

　（生徒）

ここでまた２つ質問します。地産地消という言葉を聞いたことがある人は手を挙げてください。意外と多いですね。次に平塚市で取組を行っていることを知っている人、それに参加したことがある人は手を挙げてください。減りましたね。実際に市役所の方のお話から地産地消の事業は豊富に行われていることを知りました。一方で、市民にはあまり知られていないという現状を知りました。

地産地消という言葉自体は知られているにも関わらず、その意味をよく理解されていないため、まずは知る機会が必要だと考えました。また、農業に関わる問題として後継者不足があります。後継者がいなければ、地産地消も行われなくなってしまいます。農作物を作ってくれる人がいなければ何も始まらないため、後継者不足を解決しなければならないと考えています。

　（生徒）

改めて私たちのテーマは地産地消です。今回私たちが着目したのは地産地消が知られていないことの根本の問題として、地産地消について知る機会が十分ではないことです。ここで考えたのは地産地消を知り興味を持ってもらうことです。

　（生徒）

具体的な流れを２つに分けて説明します。

１つ目は学校の授業として取り入れることです。例として出前授業や職業体験を行って発表することです。

　（生徒）

授業で発表するために調べることで、地産地消を細かく知ることができます。また、他の班の内容を共有すれば、広く深く知ることができると思います。そして、中学生が学習すれば、親との会話を始め、いろいろな人に知ってもらえ、さらには中学生自身の記憶に残ることができると思ったからです。

　（生徒）

２つ目は地産地消について得た知識が次に生かせるということです。例えば、様々な実感を伴う経験と発表が頭に残り、地産地消の意識向上につなげることができると思います。このほか、将来の職業選択に農業が加えられる場合もあるかもしれません。平塚には農業に特化した高校があるためその選択も考えられます。

（生徒）

具体的には中学生が授業内で地産地消について調べて発表します。その導入として、市役所の人に来てもらい、地産地消について授業をしてもらったり、地産地消フェスで職業体験をしたりすることを考えています。

また、市内にある平塚農商高校と協力してイベントに参加することや電子モニターなどの広告を駅に置くことで、他の人にも注目してもらうという案も考えました。

【提言発表：七夕グループ】

（参加者が自己紹介）

（生徒）

私たちは３年間、七夕学生委員会として活動を行ってきました。今年度は主にオリジナルの短冊を作成・販売し、市民飾りのデザインから作成を行いました。また、過去には漫画作家とのコラボやSDGs の取組として、竹の廃材を使ったバンブーアート、SNSでの広報による七夕まつりを盛り上げる活動をしてきました。

　（生徒）

活動を通して七夕まつりの魅力に気づき、七夕まつりと平塚がもっと好きになりました。しかし、日常生活の中で、他の学生は日頃から七夕まつりについて考えておらず、七夕まつり期間中も友達が行くからとりあえず行くなど、七夕まつりへの考え方にギャップのようなものを感じました。そして、その原因は、私たち学生世代に七夕まつりの魅力が十分に伝わっていないことにあると気がつきました。より多くの若者にこの魅力を知ってもらうために、現在七夕まつりの抱える課題について、これまで３年間の経験だけでなく、商業観光課や青年会議所の方々との質疑応答から解決方法を見いだし提言いたします。　（生徒）

私たちが考える課題の１つ目は開催日です。初日の金曜日は若者の来場者が少なく、それに伴い千人パレードの参加人数が減っていること。２つ目は市内学生の七夕まつりへの興味、関心が減少していること。３つ目は市外の学生のイメージが、平塚イコール七夕まつりではなくなっていること、この３つです。

それぞれの課題に対して解決策として提言を行い、想定される効果を説明していきます。

　（生徒）

１つ目は少子高齢化もありますが、その子どもの減少率以上に初日の若者の来場者数が少なくなっています。それに伴い、初日のお昼に行われる七夕まつり千人パレードも若者が参加しづらいという状況で、パレードの参加者が少なくなっているという現状があります。

また、平塚に住んでいても混雑を懸念し、七夕まつりに行かないという若者も増えていると感じます。これらの原因は何なのでしょうか。初日が金曜日、平日であることが原因だと思います。どのようにすればこの問題は解決するのでしょうか。初日の金曜日を祝日にします。この七夕まつり初日の金曜日を「平塚市民の日」に制定し、平塚市内の小中学校や高校を休みにすることでこれらの課題を解決できると考えます。

学校があり、参加が難しかったパレードに参加できる若者が増え、パレードの参加者増加にもつながります。また、土日の混雑を懸念し、来場をためらっていた若者も金曜日に来場できるようになるため、３日間を通して一番来場者が少ないと思われる初日の来場者を増やすことができます。

金曜日が休みになることで、我々七夕学生委員会も初日から大きく活動できるようになるため、七夕まつり全体の盛り上がりに貢献することができます。

（生徒）

次の課題は、市内学生の七夕まつりへの興味、関心が減少傾向にある、また、七夕まつりに行く動機、モチベーションが少なくなっているという点です。そこで、私たちが提案するのは市民飾りの表彰に「七夕飾り高校生部門」を作ることです。平塚市内にある高校に１校１つの七夕飾りを私たち七夕学生委員会が中心となり作成してもらいます。

　（生徒）

七夕まつりの良さは、高校生が七夕学生委員会を通じ、七夕まつりを支えるたくさんの人とつながれたように、新たなつながりがたくさん生まれるところにあると思います。ですが、その良さを知る機会が今の七夕まつりには少ないです。そのため、この飾りづくりをきっかけに、七夕まつりはもちろん平塚の魅力をも知ってもらえる機会になってほしいです。また、高校生に魅力を知ってもらえれば、SNSでの発信も見込め、準備段階においても平塚市外の方々など幅広く七夕まつりを周知することにつながります。

　（生徒）

自分たちで作成した飾りを見たいという動機から、会場に学生が足を運ぶことにもつながります。

　（生徒）

平塚市外に住む方にとって、平塚イコール七夕まつりがある街というイメージが昔はありましたが、ここ最近では平塚市外の方や若者からそのイメージがなくなってきていると思いました。その原因は七夕まつりの期間中でしか七夕を感じられないことにあるのではないでしょうか。

この問題を解決するには１年中七夕を感じられるようなまちづくりを行うしかありません。例えば、プロスポーツチームを巻き込んだまちづくりを考えました。具体的には私が大好きな湘南ベルマーレとの協力です。レモンガススタジアム平塚でホームゲームを開催する時は、選手やスポンサーののぼりなどが掲げられ盛り上がっています。しかし、これを七夕飾りで表現できたらもっときらびやかになり、七夕飾りで紹介や宣伝をすることで相手チームや平塚市以外のホームタウンに対する七夕の知名度アップにつながり、七夕まつり当日にも来場してもらえるのではないかと思いました。

また、湘南ベルマーレのスタジアムは総合公園の中にあるので、年中七夕飾りを飾ることにより、駅から公園に向かう最中に公園の利用者にも見てもらえるのではないかと思いました。

　（生徒）

さらには、七夕飾りで協賛企業を宣伝することにより、七夕まつり期間中に湘南ベルマーレのスポンサーに商店街で七夕飾りを飾ってもらえるかもしれないと思いました。

もし実現した場合、七夕まつりの予算が増えるのではないでしょうか。そして、最後に湘南ベルマーレは地元市民や若者にも人気があるので、湘南ベルマーレやその協賛企業と協力をすることで、若者への周知がしやすく、七夕まつりへの興味を持ってくれるのではないかと思いました。

これら３つの提言を行うことで、私たちが七夕学生委員会で実感した七夕まつりを知る体験をして、そこから七夕まつりの魅力を発見する。最終的には平塚への愛着も増えて、一連の流れを多くの若者に届けることができると考えています。

【司会】

学生から落合市長に質問をさせていただきます

最初に防災グループから、

１　平塚市の防災に関する予算はどのくらいありますか。

２　平塚市の予算はどのように決められているのでしょうか。また、今後の防災の予算配分はどのように考えられていますか？

次に地産地消グループから、

１　市長は地産地消が知られていないということをどうしたら解決できると思いますか？

２　市長にとって平塚といえば何ですか？

３　後継者不足に対して、市長はどういうお考えを持っていますか？

　最後に七夕グループから、

１　市長は観光資源としての七夕まつりをどのように捉えていますか？

２　コロナが開けてしばらくたった今、今後の湘南平塚七夕まつりの開催形態についてどのように考えていますか？

**８　市長の総括**

学生の皆様、お疲れさまでした。最初の感想としてすごいな、よく考えられたなという思いです。どのグループも、３日間とはいえ、七夕まつりへの参加や様々な体験を通して課題を捉えて、どうしたら課題が解決できるかという一生懸命な思いが伝わってきました。本当にありがとうございます。

３つのグループからそれぞれ質問をいただいているので、まず、その質問に答えたいと思います。

まず、防災グループになります。平塚市の防災に関する予算ですが令和 ６年度は約２億1,100万円です。これが多いのか少ないのかと言うと、市全体の一般会計予算が約1,050億円ですから、そのうちの約２億円ということでやや少ない印象かもしれません。しかし、行政では数多くの市民サービスを提供しなくてはなりませんので、その中で大切なところや、重要度が高いところに予算をかけなくてはいけません。今年は能登半島地震を踏まえ、防災の様々な部分をさらに充実させなければいけないと考え、予算を増やしました。

主な使い道ですが、現在小中学校など55か所ある指定避難所にマンホールトイレというものを順次整備しています。食料、飲料水、衛生用品などの備蓄品の購入費も増やしました。さらには、地域で主体的に活動をしていただいている自主防災組織に対する補助があります。防災では、よく自助・共助・公助といわれています。まず自分の身を守り、それから家族も含めて周りを助け、そして公助として市や国などの公的支援です。この中で自主防災組織というのは地域を守っていただく組織なので、その活動に対する補助金を出しています。

それから、大雨や台風の際に、避難指示などを発令するかどうかを迅速に判断するためのシステムの使用料など、必要なところに必要な予算をかけています。

防災に関する予算の決め方ですが、国内で起きた自然災害の事例などから学んで取り入れていくべきもの、それからもう一つはデジタル化に関するものなど、必要性を十分精査して決めています。他にも、高齢者など配慮が必要な方のためのトイレの拡充、断水時に効率的な給水作業ができるような給水タンクの導入、女性や高齢者、乳幼児が避難所で安心して生活できるための備品の購入などを予算化しています。

次に地産地消グループから３点の質問をいただきました。１点目の地産地消が知られていないことをどうしたら解決できるのかですが、これまでにも、野菜や魚の地産地消を目的として朝市を開催したり、平塚産農作物PRキャラクターのベジタを使って小中学校への訪問授業をしたりしています。平塚は農業が盛んですので、地産地消を進めるための活動はこれまでにも取組んでいるのですが、なかなか市民の皆様に浸透していない状況です。

市内中学校が９月から完全給食になりました。中学生には平塚産の農作物をしっかりと食べていただいて、こういうものを食べると体にいいよとか、平塚で採れたものを美味しく食べられますよということをもっとPRをしていきたいと思っています。知恵を絞ってPRを継続していくことが平塚のいいものを広めていくために大切ではないでしょうか。

２点目に、平塚の農産物といえば何だろうと考えたら、やはりお米です。平塚は県内で一番のお米の生産量を誇ります。「はるみ」という名前の米ですが、「湘南の晴れた海」に由来し、冷めても粘り気があって美味しいです。「はるみ」は５年ぐらい前に、お米の食味ランキングにおいて２年連続で特Ａを取ったお米ですので、「はるみ」を使って地産地消をしっかりと進めていきたいと思っています。

それから、３点目の後継者不足に対しての考えですが、農業に対して、なかなか厳しい職業だと思われているかもしれません。農業は昔３Ｋといわれて「きつい、汚い、苦しい」とかあまりいいイメージではありませんでした。今は「かっこいい、感動、稼げる」という３Ｋを目指しています。しかし、農業というのは、まだ、たくさん稼げて次の代につなげていけるような産業ではありません。土地や機材も必要ですが、若い世代が農業に参入して稼げるとか、農業で作ったものが市民に広まって魅力があって感謝をされるとか、そういう明るいイメージにならないと、なかなか続いていかないと思います。

市では農業のPRと併せて、農業のデジタル化を支援しています。例えば、無人運転による田植えやお米の刈り取りなどです。

今までの農業は、暖かい日が何日続いたら、いつ種をまこうとか、これまでの経験を頼りに行っていました。今は、種まきの時期や肥料の管理など、デジタル化による営農が進められつつあります。平塚市もデジタル化を進める農家を支援し、農業の魅力を高め、新しく農業に従事していただける人が増えるような取組をしています。

　最後は七夕まつりについてです。１点目の観光資源として七夕まつりをどう捉えているのかですが、ご存知のように七夕まつりは今年で72回を迎えました。

まず、七夕まつりがどのようにして平塚市で始まったのかを紹介します。平塚市は戦争での空襲で焼け野原になりました。戦災の復興をしなくてはならないと、復興計画を立てて５年間取り組みました。そして、復興計画でまちが盛り上がってきたときに更に盛り上げようということで、当時の仙台七夕まつりを参考にして始まったのが平塚七夕まつりです。仙台七夕まつりと異なるのは、仙台の七夕飾りは和紙を使いますが、平塚の七夕飾りは濡れても大丈夫なように、また夜間でも見られるようにと和紙ではなくプラスチック素材となっています。中心商店街の皆様に盛り上げていただき、以前は５日間の開催でした。この５日間で350万人の来場があったときもありますが、徐々にこういう大きなお祭りを続けていくのが難しい時代になってきました。今日の七夕まつり実行委員会の会議の中で、七夕飾りの作り手の減少が問題提起されました。高校生が七夕飾りを作り、飾りコンクールに参加していただけるとありがたく思います。

七夕まつりは平塚市の伝統ある大きなお祭りですから、これからも、この七夕まつりを盛り上げていくことが必要だと思います。

もう一つには、これだけ大きなお祭りをどのように維持し、続けていくかということが私たちに課された大きな問題です。

２点目の、コロナ禍が明けた今後の七夕まつりについてですが、様々な課題に対して皆様の協力をいただき、どうしたら七夕まつりを持続可能なお祭りにできるかをしっかり考え、伝統を維持しつつ若い世代にも魅力あるものにしていきたいと思っています。

最後に総括として、提言の中からいくつか感想を述べさせていただきます。

まず、防災グループでは、相模小学校跡地で災害体験できる施設をつくるという提言がありました。使用していない施設を活用する視点はとても素晴らしいと思います。地震体験車というものがあり、東日本の揺れなどを体験できます。大地震の恐ろしさから身を守るような体験イベントをこれからもしっかり行ってまいります。施設の活用は、すぐにできるか分かりませんが、他の施設も含めて考えていければと思います。

　地産地消グループでは、地産地消を学校の授業に取り入れて発表の場を設けるという提言がありました。学ぶだけでなく発表の場を作ることは、正に皆様がタウンミーティングでの取組から生まれた提言だと思います。

発表するときは、ただ頭の中で考えるだけではなく、言葉使いや表現方法に苦労すると思います。整理して苦労するからこそ、それが自分の身になります。是非ともそういう機会を作ってほしいと思います。

　最後に、七夕グループになります。七夕まつりの開催日を平塚市民の日とする案はよいと思います。

平塚市は県内でも古いまちで、県内には19の市があるのですが、平塚市は４番目にできた市になります。1932年４月１日に市となり、今92歳であと８年すると100歳になります。それだけ歴史の古いまちですが、100歳を迎えるまでに七夕まつりの日は休みという日ができるといいなと思っています。

　なぜ最初の日が金曜日かというと、これは金曜日に飾りつけを始め、日曜日の夜に片付けて次の所に飾りを持って行くためです。また、中心商店街の意向もありますので、金土日の曜日で開催しています。金曜日を祝日にする発想がダイナミックで面白いので大切に検討していきたいと思います。

市役所内では七夕飾りが飾ってあり、各窓口にも小さな飾りを置いてあります。ひらしん平塚文化芸術ホールに七夕が感じられるものを置くような考えもありましたが、ホール自体が七夕をモデルに造られています。青、緑、白の席があるのですが、白は星に、青は平塚の海、緑は竹といった、七夕をモチーフに造ったホールです。そういう所にも七夕を感じてほしいと思っています。

七夕まつりは平塚市にとって大切なお祭りで、平塚市の魅力を発信する大きなイベントです。湘南ベルマーレもそうですし、是非タイアップして相乗効果を期待できるようなことを考えていきたいと思っています。

今回の３つのテーマ「防災」、「地産地消」、「七夕」について、実は私はいずれにも深い関りがあります。市役所の職員時代には防災課に在籍していました。商業観光課にも在籍し、七夕の担当をしていました。地産地消に関しては、私は農家の長男ですから、仕事の合間を見つけて農業をしています。後継者の問題も大変だと思っています。ですから、どのグループも皆様が真剣に考え、関心を持って自分事として捉えて提案をしていただいたことが本当にうれしく思います。

　皆様には機会があれば、次のステップとして平塚のまちづくり、例えば青年会議所のまちづくりに関わるとか、お祭りやスポーツなど自分たちの身近にあるものを、一緒に考えていただけるとありがたいと思っています。

本日のタウンミーティングに関わっていただいた全ての皆様にお礼を申し上げ、総括とさせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。